

教 会 会 報

川 畔 の 尖 塔

日本キリスト教団札幌教会

「救い主の誕生」

マタイによる福音書二章一～一二節

牧 師
米 倉 美佐男

「彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。」（十一節）

キリストがベツレヘムに千度生まれてもキリストがあなたがたの心の中に生まれなければあなたの魂は救われません。主の十字架だけがあなたを健やかにするのですから。ゴルゴタの丘の十字架があなたの心中に立てられなければ、あなたの魂は永遠に失わってしまうでしょう。（アンジェラス・シェレシウス）

クリスマスおめでとうございます。先の

言葉を毎年イブの礼拝の冒頭に語っています。育てられた横浜の教会で牧師がイブの礼拝で毎年語っていた言葉です。本当にそうだと思います。クリスマスの意味がここに凝縮されています。

主イエス・キリストが誕生された時代はヘロデがユダヤの王の時代でした。ルカには皇帝アウグストの時代と記されます。2000年少し前の時代、主イエスの国はローマ帝国の属領でした。ヘロデはローマの傀儡でした。

今日の記事の登場人物に東の国から来た三人の学者たちがいます。聖書には三人という数字はありませんが献げた黄金・乳香・没薬の三つのプレゼントから出た数字です。言い伝えでは四人目の博士の物語もあります。彼らは東の空に現れた大きな星に導かれて遠い道を旅してきました。おそらく今のイラク、イランの国あたりだったろうと伝えられています。ラクダに乗つてカツボカツボと揺られて来たのでしょうか。（ヨハネ八章十二節）

「今日はダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」（ルカ二章十一節）

クリスマスは救い主イエス・キリストと出会う喜びと感謝の時です。

「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」（ヨハネ八章十二節）

デだけでなくエルサレムの人々も王と同じく不安を感じたと記されています。ヘロデの不安は自分の王としての地位が危うくなると考えたからです。それでエルサレム近郊の二歳以下の男の子を虐殺するという行動へと駆り立てたのです。東の国の学者ちは身の危険も顧みず、救い主を拝みに来たのです。ただメシアを礼拝するためにキリストは信じようが信じまいが罪深い人間の罪を赦すためにお生まれになつたのです。十字架にかかるためにキリストはお生まれになられたのです。





クリスマスに 寄せて

主にあつてひとつ



加藤 康夫

メリークリスマス。

1984年のクリスマスは、米国コロラド州デンバーのシンプソン合同メソジスト教会で迎えました。同年6月から家族（妻と一歳の長男）で赴任していました。

日系の教会で、車で北へ約20分の郊外にあります。礼拝堂を一つ持ち、ひとつは「日語部」主に一世の信徒が、もうひとつは「英語部」二世、三世が集います。私たちは「日語部」に通いました。

クリスマスには恒例の音楽祭が開催されます。市内の教会の聖歌隊が、会場内の各々のブースでクリスマス・キャロルで讀美し、聴衆が聴いて巡るという趣向です。「加藤さんは声がいい」と原護牧師にただられ、すっかりその気になつて参加することになりました。15人ほどの編成で、

私はバスを担当し、「あら野のはてに」を始め数曲を何度も練習しました。会場は市内にあるデンバー植物園です。一角に日本庭園があり、あづま屋の前に並びました。開演は夕刻、日が暮れてからです。屋外で寒いので、お腹の底から発声しないと声が通りません。力を込めて讃美していると、不思議にもご生誕の喜びが心から満ちてきました。忘れられないクリスマスの思い出のひとつです。

デンバーに日系人が多いのには理由があります。第二次世界大戦中、強制収容を強いられた日系人を、当時のラルフ・L・カー、コロラド州知事が州として唯一擁護してくれたのです。日本人街サクラ・スクエアにはカーリー氏の胸像が立っています。

CSに関わつて

梅田 雅章

クリスマスには、この教会の一人一人のことも祈つてあります。私は主のもとにあつてひとつなのです。

今年もクリスマスを祝うことのできる幸いに感謝します。

クリスマスには、この教会の一人一人のことも祈つてあります。私は主のもとにあつてひとつなのです。

今年もクリスマスを祝うことのできる幸いに感謝します。



シンプソン合同メソジスト教会のエントランス

私たちが通つていた頃、「日語部」では50人程が礼拝を守っていました。ところがここでも高齢化の波が押し寄せ、昨年訪れた時は9人となつていました。「日語部」をとりまとめ、長男をとても可愛がつてくれたミヤコ・スミコ姉も一昨年召されました。しかし少人数となつた信徒の交わりはとても深く固いです。信仰の信義を感じま

時あまり周りを見ていなかつたのか、わからませんが、それくらい子供が沢山來っていた時代でした。その時は人からいろいろ言われてやるのがあまり好きではなかつたため、先生達には迷惑をおかけしました。

社会人になり、しばらくしてから横須賀の教会に通い、そこでCSを担当するようになりました。クリスマスの劇を礼拝後に行なうのが恒例となつており、前日になりハーサルを行なうぐらい力も入つていました。大天使ガブリエル役の子供は歌う曲も多く、他の子どもたちもそれぞれの役にセリフがあり、大変だつたと思います。

急に子供が来られなくなつたら大変と、CS教師は当日は朝から心配ばかりしていました。

クリスマスは教会で過ごすことが当たり前、と思っていた反面、子供の頃の友人や社会人になつてからの同僚や上司にとつてはクリスマスがイエス様のお誕生日を教会で祝うという考えは馴染みがないのだろうなど感じます。クリスマス・イヴの日に早く退することに対し、必ずしも理解してもらえるわけでもないので、今年はその意味では安心してクリスマスを迎えるそうです。

社会人になり、しばらくしてから横須賀の教会に通い、そこでCSを担当するようになりました。クリスマスの劇を礼拝後に行なうのが恒例となつており、前日になりハーサルを行なうぐらい力も入つていました。大天使ガブリエル役の子供は歌う曲も多く、他の子どもたちもそれぞれの役にセリフがあり、大変だつたと思います。

私は、岩内教会の日曜学校の生徒として毎年精勤賞を頂き、勿論クリスマスの聖誕劇では低学年の時は、動物や星等の役を担い学年が進むにつれ、憧れていた博士やヨセフ役や又家から白いシーツを持つてきて天使になつたりと、先生方に教えられた通りに色々な役を一生懸命演じました。

11月81歳の誕生日を迎えた私は、さて、教会でのクリスマスを何年重ねてきたと思われますか。〈ヒント 小学校一年生からこの年迄一度も休まず継続しています。答えは文章の最後に〉



クリスマス「聖誕劇」

小笠原貴美子

さて月日を経て教会学校の生徒を卒業した私は、自分の思いではなく、神様のご計画の中での岩内幼稚園の先生にさせて頂きました。

クリスマスを色々演じてきた側から、今度は子ども達に教える側となりました。

聖誕劇の色々な場面は、いわば型通りと言ふか、決まりきつたものになつてしまいがちです。子ども達に一方的に教え込む事にもなりがちです。

ある年幼稚園の先生方の集会で、聖劇の体験話として、「ベツレヘムの宿屋は云々…」とのセリフを子どもが「ベツノヘヤをさがしに行こう」と言つたとの事、この子はベツレヘムと口が回らなかつたのでしようか、先生に教えられた通りでなく自分の口と心でベツノヘヤを捜し、イエス様のご誕生を祝う事ができたのではないでしょうか。今でもこの事を思い出すのです。

私は40年間保育者として勤めさせて頂きました。今は札幌教会員として奏楽の奉仕を長い間させて頂き感謝です。

これからも神様のご計画のまま歩み続けさせて頂きたいと願つています。

〔☆：答え 75年目継続中です☆〕



馬ぶねに眠るイエス様こそ 最大のプレゼント

榮 潤子

はなりません。

マザーテレサは、

「愛の反対は憎しみではなく無関心である」と言っています。

「神は、独り子を世にお遣わしになります。その方によって、私達が生きるようになるためです。ここに神の愛が私たちの内に示されました。」第一ヨハネ四章九節

神様の愛がイエス様の誕生によって、はつきりと示された。このことを祝うクリスマス。賑やかな音楽、美しいライトの飾り、おいしいケーキ、食物。クリスマスというと一番先に思いついてしまいそうです。でも教会は馬ぶねに眠るイエス様を伝えるのがクリスマスであることを語ります。

礼拝堂にクリスマス四週前からアドベントクリスマスが飾られ、ローソクが一本ずつ加えられています。救い主の来臨を待ち望んだ旧約時代の人々に心を合わせます。特に、礼拝の御言葉に耳を傾けます。

そして一年間の生活を振り返る時でもあります。親しい人を天に送った人を思い、カードを送ったり、病気の人を見舞つたり、助けを必要としている人への配慮をしたりします。子供達や家族への思いやりと共に、交わりを求めている人を迎える時ともなると思います。

イエス様の誕生は、神様が私達人間に与えて下さった愛の贈物であることを忘れて



1949年 クリスマス

いなさい」と言つておいでになります。

教会では、このイエス様、神様をほめ讃えるために沢山の讃美歌を歌います。この神様を讃美する歌声が教会で、家庭で、街中で世界中に響きます。

私達の社会にこの神の愛がクリスマスでは、あの貧しい困難な時代にもかかわらず、礼拝堂の椅子を壁際に寄せてゴザを敷き、講壇に向かって日曜学校の生徒が座つて行なわれました。石炭ストーブが燃やされ、大人も参加して礼拝と祝会をしました。分級ごとの出し物、小中高生と青年を交えた劇などもありました。教会全体の雰囲気が暖かく思い出されます。当時生徒だつたり、先生だつた人々が教会の信徒となり各地に散っています。

近年、クリスマス礼拝とキャンドルサービスでハalleluyaコーラスが讃美されるようになりました。私が育つた札幌教会の皆さんと共に、永く歌い続けたい思います。

宗教改革五百年

記念行事「木曜講座」



木曜講座で

問い合わせたこと

大濱 徹也

今年度の木曜講座は、ルターの宗教改革五百年を受け、「十六世紀の日本と世界」を課題に、宗教改革の波動が日本に何をもたらしたかを問うこととしました。

イエズス会は、ローマの教会をイエスの福音に回帰することで覚醒し、全世界に福音を伝える戦闘集団となり、宣教戦線を開します。日本宣教は一五四九年に来日したフランシスコ・ザビエルによつてはじめました。まさに十六世紀の日本は、宣教開始より四十年余、一五九〇年代にキリスト教徒数が三十万となり、キリスト教が隆盛となつた「キリスト教の時代」でした。

しかしキリスト教は、一五八七年に秀吉の伴天連追放令、さらに家康から家光へと禁教体制が整備強化され、己の信仰が問わされることとなりました。キリスト教は、パライソへ多くが「転ぶ」棄教しますが、

の道を信じて殉教した者も各地に見出せます。その一方で村組のなかにとけこんだキリストンは、「先祖伝来」の信仰を護つて生きぬき、「かくれキリストン」として開国後にその存在が世界を驚愕させました。

このようなキリストンを生み育てたイエズス会の宣教は、緻密な日本研究をふまえ、日本の慣習に順応することで、信仰の玄義が日本人の心をとらえました。その信仰世界は、教理問答『どちらいなきりしたん』、殉教に備える『丸血留の道』等々で教育されるとともに、創世記にはじまる聖書の世界をキリストンの生きる風土が舞台となる『天地始之事』として語り伝えてきた物語にみることができます。

かく日本キリストンの心をとらえたイエズス会の宣教は、十九世紀のプロテスタントの宣教師が日本を「野蛮」視し、「文明の使徒」として振る舞つた作法と全く異なるものです。想うに日本のプロテスタンチズムは、キリスト教を「文明の宗教」とみなして生きようとした日本のキリストンが問う語つた世界の一端を紹介しました。キリストンの信仰に想いをはせ、己の場を確かめ、「私」が主語で大いなる存在に向かいたいものです。

粉飾してでしか、己の「信仰」をかたれない様相にみることができます。

想うに日本のキリスト教界では、教会の足下を凝視することなく、ある種のイデオロギー、虚偽意識を「信仰」と思いみなし、「キリスト者の社会的責務」なる大義をふりかざし、十字架の贖罪など戯言と言わんばかりの言動もみうけられます。

わたしは、かかる日本のキリスト教界がおおわれている空氣、気分ともいえる世界を目にすることにつけ、十六世紀にはじまる日本キリストンが生きた世界に心ひかれます。ここには、イエスが問いかけています。日本キリストンはかく説かれたイエスの福音を喰らうことで、己の血となし、肉とすることで「先祖伝来」の信仰を守り続け、明日に向かつて雄々しく生きてきたのです。

講座では、このような思いから、信仰者として生きようとした日本のキリストンが問う語つた世界の一端を紹介しました。キリストンの信仰に想いをはせ、己の場を確かめ、「私」が主語で大いなる存在に向かいたいものです。

注「玄義」キリスト教で、神によって啓示される信仰の奥義

宗教改革五〇〇年を覚えて

牧師 米倉美佐男

「神はわが砦」

「神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。苦難のとき、必ずそこにいまして助けてください。」（詩編46編2節）

今年は宗教改革五〇〇年の年です。昨年から意識してこのことを覚えて頂きました。宗教改革記念は十月三十一日です。一五一七年十月三十一日、M・ルターが九五か条のご提題をヴィツテンベルク城の教会の門の扉に掲示されたことが宗教改革のシンボルとなりました。先駆的運動として、十二世紀～十三世紀に当時の教会（ローマ・カトリック）に対して抗議活動をした人たちがいました。ワルドー派や十四世紀のウイクリフ、十五世紀のフスやサヴォナローラたちです。彼らは異端として破門されたり死刑にされました。ルターが九五か条のご提題を掲げた時は三十四歳でした。ご提題の第一条にはイエス・キリストが悔い改めを語られたことは、キリスト者の全生涯が悔い改めであることをお望みになられた、と始められていました。

ます。当時の教会は悔い改めは教会に行つてお札（贖宥符、免罪符）を貰えればいいということがありました。ルターは聖書の中どこにもそのようなことは書かれていないと問い合わせたのです。それが宗教改革の象徴となりました。

宗教改革の柱として、五つのソラ（の

み）、聖書（ソラ・スクリプトゥラ）・信仰（ソラ・フィデ）・恵み（ソラ・グラティア）・キリスト（ソラ・クリストゥス）・神の栄光（ソリ・デオ・グロリア）と万人祭司があります。全信徒祭司性とも言われます。信する者がみな普遍的に祭司であることです。信じることができなかつた者がキリストの仲保によってキリスト者になつたこと。キリストによって義とされ、他者のために祈る者とされていることを言うのです。宗教改革は過去へ戻ろうとしたのではなく、絶えず福音に立つてキリストの恵みを感謝し、聖書の御言葉に正しく聞き、歩むべきことを示したのです。聖書の原点に

辻 豊くん
辻彩乃ちゃん

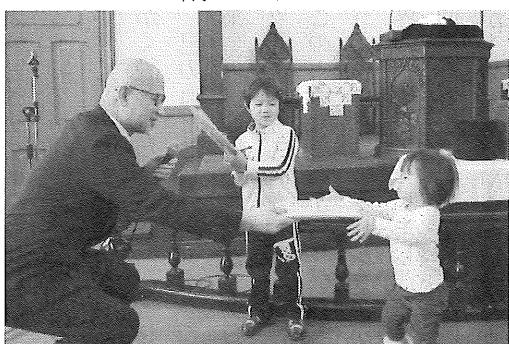
神様のお守りのもと、明るく健やかに成長されますように。

幼児祝福式（十月十五日）

♡ お幸せに！ ♡



瑞記さん
原田直美さん



10月28日（土）16時
米倉美佐男牧師の司式で結婚
されました。
直美さんは林信子姉の長女で、
教学校にも通っていました。

教会音楽会と聖歌隊

中川 洋子

10月29日秋季特別伝道礼拝の午後、札幌教会音楽会がありました。

礼拝堂にはパイプオルガンがあり、四人の奏樂者がおります。教員にNPO札幌室内歌劇場の会員、メゾソプラノの歌い手がいます。聖歌隊もあり、教会暦にあわせておよそ月一度位礼拝でご奉仕していま

す。今回のプログラムは宗教改革五百年にちなみ、ルター作詩又は作曲と言われる曲や、讃美歌の全員合唱も数曲ある楽しめるものでした。

四人の奏樂者の内三人参加。二人はJ・S・バッハ作を含む讃美歌として



ように響いたことでしょう。

私は聖歌隊では長い方で、81歳も半ば以上過ぎ、歌うのが好きというだけ、近年声帯が衰えて来て（これは老化現象）声は出ず、覚えが悪くなり……と、いつが辞め時かと思うこの頃です。今年は教会行事が続いた後で練習不足もあり、かなり大変でした。指揮者は普段あまり歌わっていない讃美歌からその“時”に合う歌を選び、指揮して下さいます。私たちにとつても新鮮で嬉しいのですが主旋律以外は先ず音をとるのが大変、そして歌詞をつけるのが難しくなりました。これも私の歳の故でしょが。聖歌隊員が増えることを希っています。

それにはイエス様を信じる人が増え、教会員も増えてゆくこと。聖歌隊がご奉仕だけでなく伝道にも用いられますようにと願っています。ご奉仕も、自分が歌っているつもりでも声を皆様の耳に届かせて下さるのは神様です。声と言うより心、そして聖書のみ言葉が伝えられると信じなければ、私たちが歌う意味もありません。

これからも聖歌隊の奉仕を神様が祝し、導いて下さいますようにと祈つております。



お仕事会

梅田 容子

**教会
Do !**

お仕事会は、教会婦人会の奉仕担当役員の深田姉、千葉姉を中心に運営されています。きっかけは、八月の例会「バザーのお仕事会」の準備をしようということ始められました。花ふきん・鍋つかみ・フェルトのマスクコット・スエーデン刺繍の聖書カバー等で担当が決まりました。



例会後もバザーに出すための作品づくり、会員が作成した作品の仕上げ等々、しなければならないことが多く金曜日（午前十時から午後三時頃まで）婦人会室での作業がはじまりました。いつも六人から八人の会員が集まり、自分のやりたいこと、やることをしています。今まで、こんなに親しく、長い時間を共にしたことがなかつたので、とても楽しい金曜日となりました。それぞれの得意なこと、個性が發揮されました。バザーの売り上げも、びっくり

するほどありました。
その後、コースター、マスクコットのロバ、教会を図案化し刺繡をした聖書カバー・額の注文を受け、作成しています。婦人会からは、教会に来られないご高齢の方々へのクリスマスプレゼントの依頼を受けました。

これからは、二月予定のミニバザーにながつていくのかなと、漠然と考えています。手芸に興味をもたれる方、また、針をもつて何か作りたい方は、どなたでも、おいで下さい。よい交わりの時がもたられるとうれしいです。歓迎いたします。

○守屋 學兄 十一月三日（金）に八十歳のご生涯を閉じられました。今年六月十一日に信仰告白をされ、同日典子夫人も洗礼を受け、札幌教会の会員となりました。当初から病との戦いで入退院を繰り返しておられました。お二人の上に主の平安を祈ります。

追悼のお知らせ

○山田 民姉 九月十六日（土）九十二歳のご生涯を閉じられ、北大病院に献体されたとの報告がご長男からありました。

編集後記

大型台風が幾たびも日本列島を襲い、世界各地に異常気象、自然環境の破壊、戦争の脅威が満ち、人びとの愛は冷え、暗黒と混乱と不安に終始した年でした。人間の罪、神に背を向けた罪が人と被造物との平和を破壊した結果と言えるでしょう。そんな世界のただ中に、神の独り子は幼な児の姿でおいでくださいました。人と人、国と国、人と自然、神と人との間に平和を回復するために。私たちに与えられた大きな慰めです。 メリー・クリスマス！

(S・S)